

平成14年度の活動記録

1.平成14年度 理事会・総会

- ・平成14年7月12日(金)午前中に茨城県開発公社小会議室に於いて、第1回理事会が開催され、総会に諮る議案等が審議されました。
- ・同日午後1:30より、大会議室に於いて、平成14年度総会が開催され、議案が提案通り承認されました。
- ・総会后、特別講演としまして、「GISによるいばらきの情報化の推進と課題」と題しまして、(社)茨城県測量設計業協会 IT推進委員の安藤昭弘様、プロジェクト紹介としまして「百里民間共用化事業計画について」を茨城県企画部事業推進課 空港対策室長の岸谷克己様、新全総分科会から「いばらきらしい21世紀のまちづくりのために」と題しまして、(株)ミカミの山口忠志様からの三つの講演を実施致しました。

2.新全総分科会東海村現地調査

平成14年11月2日(土)に、参加者21名で開催されました。

視察コースは、

東海駅東土地区画整理事業、村松虚空蔵尊と「村松晴嵐の碑」周辺、げんでんテラパーク、白方溜蜚景公園、久慈川沿岸低地部及び久慈川新橋付近、石上城址、市街地台地部、笠松運動公園付近、さわの杜住宅団地

でした。終了後、今後の進め方の打ち合わせを兼ねた懇親会を実施致しました。

3.いやしに関する講演会

「生活空間におけるいよしの効果」講演会を平成14年11月28日(木)、(財)茨城県建設技術研修センター第2会議室開催しました。参加者は、約65名でした。

第1部で、茨城大学工学部機械工学科の稲垣照美助教授による「ホタルの揺らぎによるいよしの効果」と題しまして講演を御願い致しました。副題は「いよし空間創造へ向けたホタルの光と人の感性に関する研究」です。

講演の主な概要は、

- ・ホタルの明滅を感性工学へ応用することによって、生物学・生態環境学・精神医学(いよし)などとの連携を行って研究している。
- ・ホタルの光は、複雑系の解析から低周波側で1/f、高周波側で1/f²ゆらぎとなり、風の流れや川のせせらぎの音などと同様人の感性にいよしの効果を与えている。
- ・人工ホタル(イルミネーションホタル)をつくり、北九州博覧会2000のホタル館、富山県八尾町のホタル館、板橋区のエコポリスセンターなどで展示した。
- ・福祉利用で、高齢者施設やホスピス関係などで、随時いよしを与えることができる。(水戸の「ローズピラ」でもデモを行い好評を博した。)
- ・従来「フォッサマグナ」を境にして、ゲンジボタルが西日本側が2秒ホタル、東日本側が4秒ホタルと言われていたが、気温・気圧が要因と考えられ、地理的な分布は適用できないことがわかった。
- ・ホタル鑑賞会のアンケートでは、単にホタルの光の明滅だけでなく、生息環境を含めた空間全体にいよしを感じている。(草木などの植物や流れの音、におい、湿度、温度、採光など)
- ・バイオテクノロジーを活用して、やさしくて快適な環境空間を提案して行きたい。

第2部は、造園Gの樫村英紀様に「ホタル復活の取り組み」-環境整備における自然復元への提言-と題しまして、発表していただきました。項目をあげますと、

- ・ホタル復活のきっかけ(ふるさとへのUターン、一匹のホタルとの出会い)
- ・ホタルの種類とゲンジボタルの生態(ゲンジ・ヘイケの違い、ゲンジボタルの一生)
- ・護岸工事の流れ(従来の整備手法、今後の整備手法)
- ・現在の活動状況(ホタル観察会、ホタルの産卵・ふ化・放流、ホタルの飼育、ホタル水槽)
- ・今後の環境整備のあり方(人と自然の共生、「地球人」として、イトヨの里泉が森公園の例)

いずれも、普段の堅苦しい題目に比べましてほっとするような講演でした。、研究会としまして、初めての取り組みでしたが、大変好評でしたので、今後も引き続き、このようなユニークな講演を行ってゆきたいと

考えております。

4. 現地見学会の開催

平成14年12月29日(金)に、参加者は36名、大型バス1台で実施致しました。
午前中は、東京電力(株)常陸那珂火力発電所の建設現場を見学致しました。すでに1号機及び煙突等が完成し、平成15年度の稼働を目指して現在試運転を実施しております。

午後からは、大北川総合開発事業の小山ダムの工事現場を見学しました。
研究会では、平成11年にも小山ダムを見学しましたが、その時は、ダム本体はまだ打設しておりませんでした。
寒い中では、ありましたが大変ご苦労さまでした。



堤体が7分通り、立ち上がった現場です。
RCD工法でコンクリートが打設されています。

5. 建設副産物リサイクルワークショップの開催

平成15年1月24日(木)、(財)茨城県建設技術研修センターに於いて、参加者86名で実施されました。
テーマは、建設副産物について、リサイクル法の適用に伴って様々な対応が迫られておりますが、業界を含め、現況での問題点等についていろいろな立場から御提言いただきました。

第1部では、「現状報告」としまして現在の建設副産物再利用の現況につきまして報告いただきました。



「茨城県の廃棄物の現状について」茨城県土木部検査指導課の秋山係長様からリサイクル法の体系と合わせまして御説明いただきました。

合わせて第2部の「茨城県のリサイクルの取り組み」についても御発表いただきました。

「建設廃棄物の処理の現状」につきまして、(株)ヤマゲンの三枝敏様から御報告いただきました。
特に、廃木材からのパーティクルボード製造につきましてお話しいただきました。



同じく「建設廃棄物の処理の現状」と題しまして、(有)茨城県リサイクル協会の沼田元良様から、混合建設廃棄物の破碎・分別して廃プラ、紙くず、非鉄、木くず、電線、ガラス、硬プラ、ボードの製造に関するお話しをいただきました。



「公共事業から発生する残土の有効利用について」と題しまして、(財)茨城県建設技術管理センターの野内光男様から御報告いただきました。



茨城大学工学部都市システム工学科の沼尾達也先生から、「学会等の取り組み、研究の動向等について」御報告いただきました。



第2部の「建設廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用の事例ならびに問題点について」では、当研究会の会員である(株)井坂組の井坂實様から「建設業の立場から」御説明いただきました。
刈草・剪定枝、伐根の処理等の業者アンケートを元にお話しいただきました。処分費等についてはかなり厳しい現実のお話しでした。





コンサルタントの立場から、本研究会の会員であります(株)長大の牧野均様から、ライフサイクルコストの観点から超寿命の構造体のお話しと、廃棄物発生抑制の観点からの設計法とか鋼材の再利用などのお話しがありました。

大学の研究者の立場から、茨城大学工学部都市システム工学科の安原一哉先生から御報告いただくとともに、最後に、他産業における活用と題しまして、笠間にあるアートセラミック(株)の川瀬光一様様から産業廃棄物を高温焼却処理することによって、重金属やダイオキシンを無害化し、再生品に利用できる画期的な茨城発の技術につきましてお話しいただきました。



6.新全総G「ケーススタディー東海村」課題発表会

平成15年2月26日(水)、第6回運営委員会の開催前に報告がありました。場所は、茨城県職員会館です。

- ・取り組み方、方向性について、(株)ミカミの山口様から、イアン・L・マクハーグらによる流域に着目した生態学的地域計画の説明があり、また、アウトプットとしては新たな理念の導入や新たなまちづくりの提案を具体化したイメージパースの作成について大宮土木の沢島様より提案があり、今後よく議論して行くことになりました。
- ・茨城コンサルタントG((株)常陸測工)の鈴木信之様より、「土壌特性と農業用水について」と題して、世界の土壌 日本の土壌 茨城の土壌 東海村の土壌、さらに世界の水資源 日本の水資源 茨城の水資源 東海村の農業用水のお話しがありました。
- ・次に、地質調査G(基礎地盤コンサルタント(株))の伴夏男様より、「東海村北部地域の地形・地質概要」についてお話しがありました。

7.河川改良・地中連壁築造現場見学会

平成15年5月26日、午後2:30から、伊奈町神住新田本田103-13の一級河川「中通川」改修工事における、TRD工法(ソイルセメント地中連壁工法)現場の見学会を実施しました。

この工事は、河道変更に伴って、旧河川部を築堤埋め立てする際に、既存の家屋が近接しているため、その沈下引き込みを防止するために、地中に土留め壁を構築するものです。

施工延長は、79m、壁厚は、55cm、深さ約39m、設計強度は、1,000kN/m²で、3mピッチに芯材としてH鋼(300×10×15)を所定の掘削深さまで貫入させています。

参加者は、54名でした。



現場近くにセットされた固化混入のためのセメントサイロ

旧河川敷左岸側に家屋があり、元の堤防際に連壁を
施工中。
ユニットをつないで所定の深さの39mのチェーンソー状
のカッターで、ベントナイトを注入しながら横に掘進む。
その後、セメントミルクを注入し固結前にH鋼を自重
貫入させる。



右端が現在カッター状で地山を掘削している。
発生した汚泥等は、土質改良をして盛り土に流用している。